

---

# 季節的に流行する感染症等に係る 協会けんぽの医療費等について

(平成20年10月～平成25年3月)

# 1. 背景・目的

季節的に流行する感染症等の流行状況については、国立感染症研究所の感染症発生動向調査等により概ね把握することはできるが、これらの傷病に係る流行時点の医療費等はこれまで明らかでなかった。

今回、協会けんぽ保有のレセプトから傷病別集計を行うことにより、これらの傷病に係る医療費等の把握及び分析を行う。

本分析は、協会けんぽ保有のレセプトデータの利用可能性を探る一環として、演者が実施したものである。本分析、結果及び考察は演者個人のものであり、当協会のものではない。

## 2. 方法

平成20年10月から平成25年3月診療分の入院外レセプトを集計対象とした。

傷病別に入院外医療費、1人当たり入院外医療費の3要素分解、1人当たり入院外医療費対前年同期比(以下、「対前年比」という。)、対前年比の寄与度分解等を行った。

対象とした傷病(以下、「対象傷病」という。)は以下のとおり。

	傷病コード(7桁)	傷病名
インフルエンザ	3810006	インフルエンザ中耳炎
	4871001	インフルエンザ
	8830710	インフルエンザ気管支炎
	8830720	インフルエンザ心筋炎
	8830721	インフルエンザ性胃腸炎
	8830722	インフルエンザ性咽頭炎
	8830723	インフルエンザ性急性上気道感染
	8830724	インフルエンザ性胸水
	8830725	インフルエンザ性喉頭炎
	8830726	インフルエンザ性喉頭気管炎
	8830727	インフルエンザ性副鼻腔炎
	8830728	インフルエンザ脊髄炎
	8830730	インフルエンザ脳脊髄炎
	8830731	インフルエンザ肺炎
	8832283	急性インフルエンザ心筋炎
	8842079	インフルエンザAソ連型
	8842080	インフルエンザA型
	8842081	インフルエンザA香港型
8842082	インフルエンザB型	
8843828	インフルエンザ脳症	
8846356	インフルエンザ(H1N1)2009	
アレルギー性鼻炎	4770002	花粉症
	4779004	アレルギー性鼻炎
	4779015	アレルギー性副鼻腔炎
	4779016	季節性アレルギー性鼻炎
	8830398	アレルギー性鼻咽頭炎
	8833084	血管運動性鼻炎
	8837835	通年性アレルギー性鼻炎
	8845847	アレルギー性鼻結膜炎
RSウイルス	0799008	RSウイルス感染症
	8830134	RSウイルス気管支炎
	8830135	RSウイルス細気管支炎
	8830136	RSウイルス肺炎

	傷病コード(7桁)	傷病名
感染性胃腸炎	0090001	感染性胃腸炎
	0090010	急性感染性胃腸炎
手足口病	0743002	手足口病
風疹	0569001	風疹
	8839609	風疹髄膜炎
	8839610	風疹性関節炎
	8839611	風疹性髄膜脳炎
	8839612	風疹性肺炎
	8839613	風疹脊髄炎
	8839614	風疹脳炎
8839615	風疹脳脊髄炎	
アデノウイルス	0790001	アデノウイルス感染症
	8830268	アデノウイルス結膜炎
	8830269	アデノウイルス髄膜炎
	8830270	アデノウイルス髄膜脳炎
	8830271	アデノウイルス腸炎
	8830272	アデノウイルス脊髄炎
	8830273	アデノウイルス脳炎
	8830274	アデノウイルス脳脊髄炎
	8830275	アデノウイルス肺炎
	8835650	水泳プール結膜炎
	8840990	流行性結膜炎
	8845210	アデノウイルス咽頭炎
8845211	アデノウイルス扁桃炎	
百日咳	0339001	百日咳
	0339002	百日咳菌性肺炎
	0339005	百日咳肺炎
マイコプラズマ肺炎	8842169	マイコプラズマ肺炎
ノロウイルス	8842417	ノロウイルス性胃腸炎
	8842528	ノロウイルス性腸炎
熱中症	8844801	熱中症

## 2. 方法

### 【留意事項】

入院外医療費は、入院外レセプトと調剤レセプトを紐付けし、それぞれの医療費を合計したものである。

各対象傷病及び感染症等計の医療費は、電子レセプトのうち、対象傷病の傷病名コードから当該対象傷病のものと判断されるレセプトを集計した推計値である。

各対象傷病の医療費(推計値)は、レセプトに当該対象傷病の傷病名コードが1つでもあれば集計対象とし、その集計対象レセプトに係る全医療費である。

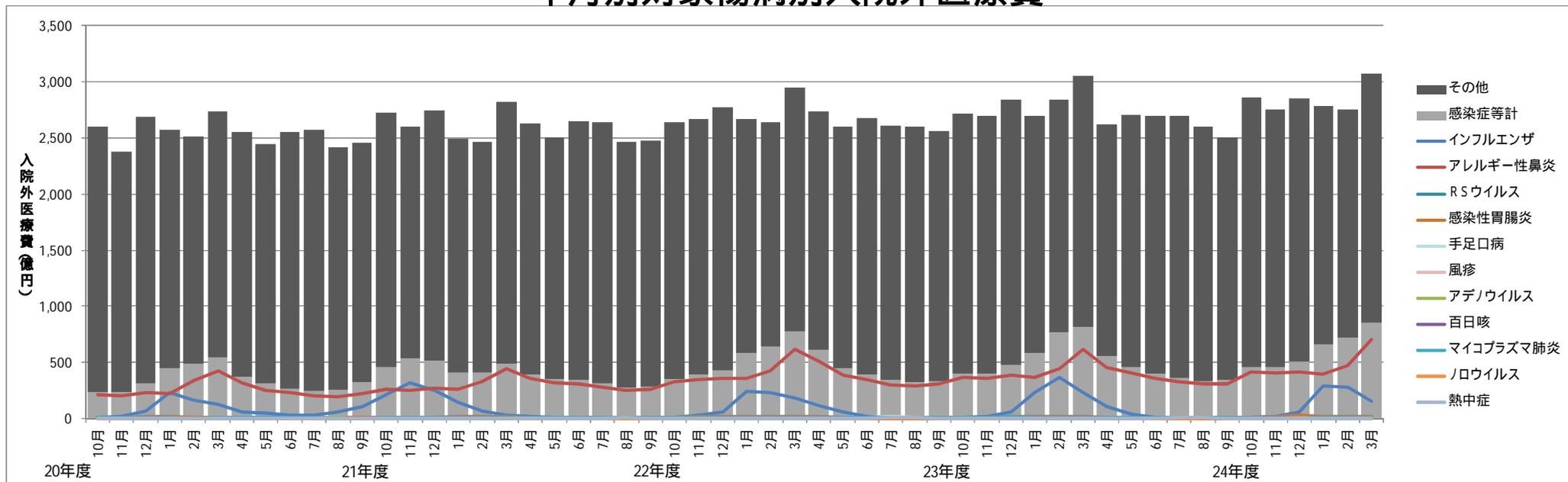
今回の集計方法では、同一のレセプトに複数の対象傷病の記載があれば、それぞれの対象傷病の医療費として集計されている。(重複集計)

感染症等計の医療費(推計値)は、レセプトに対象傷病の傷病名コードが1つでもあれば集計対象とし、その集計対象レセプトに係る全医療費とした。

未コード化傷病名については、傷病名から傷病名コードに変換するソフトを使用し、傷病名コードの付番を行っており、平成24年度の入院外レセプトにおける傷病名コード化率は約97%となっている。

# 3. 結果

## 年月別対象傷病別入院外医療費



今回の集計方法では傷病別入院外医療費で重複集計となる場合があるため、傷病別の合計が感染症等計と一致しない。

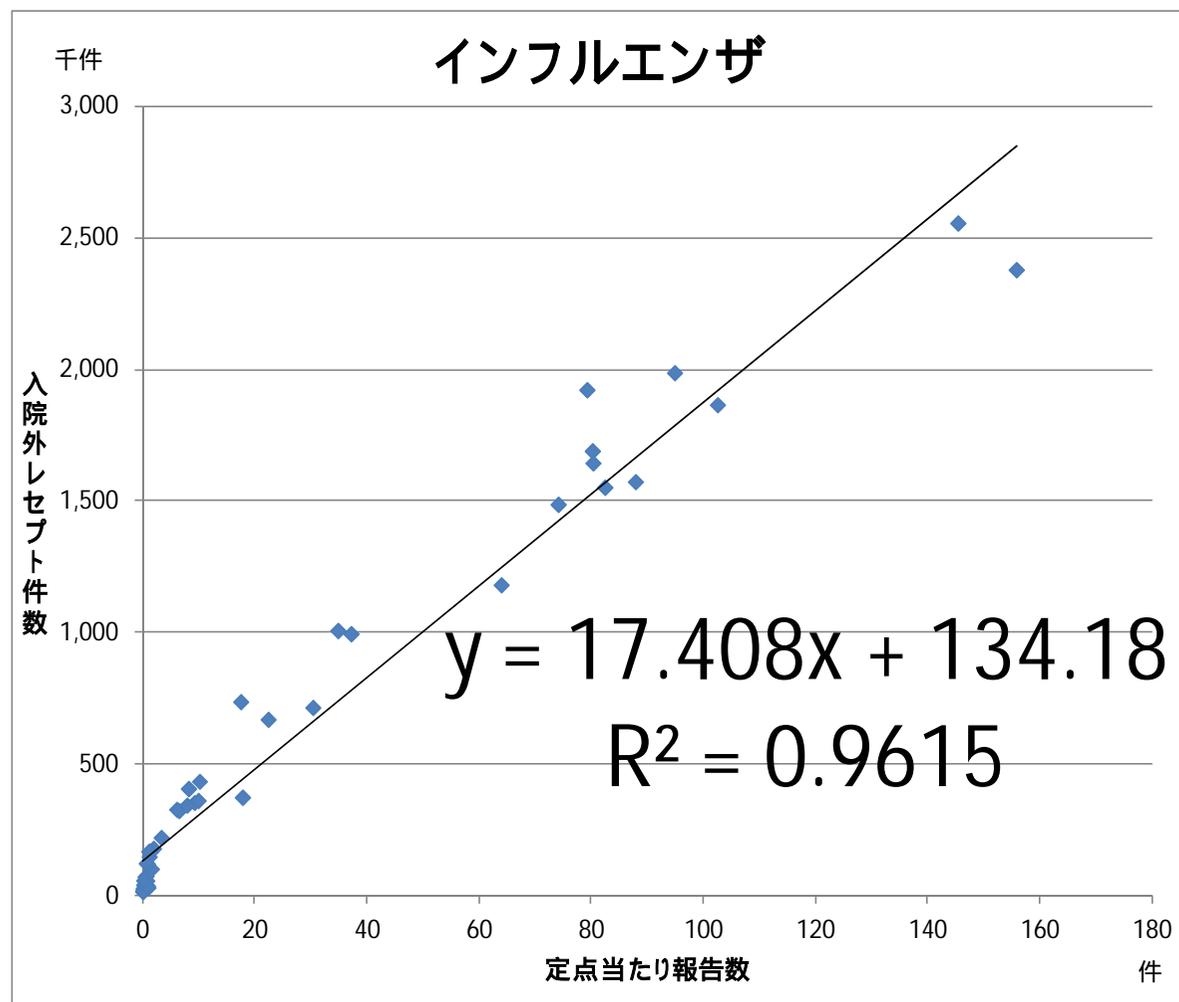
1年のうち感染症等計が高くなるのは、インフルエンザとアレルギー性鼻炎の流行が重なる1～4月。

インフルエンザ及びアレルギー性鼻炎については、流行月には入院外医療費の10%を超える。平成20年10月以降で最も高かったのは、インフルエンザは平成24年2月で368億円。アレルギー性鼻炎は平成25年3月で708億円である。

インフルエンザ及びアレルギー性鼻炎以外の傷病については、いずれも入院外医療費の1%以下である。

### 3. 結果

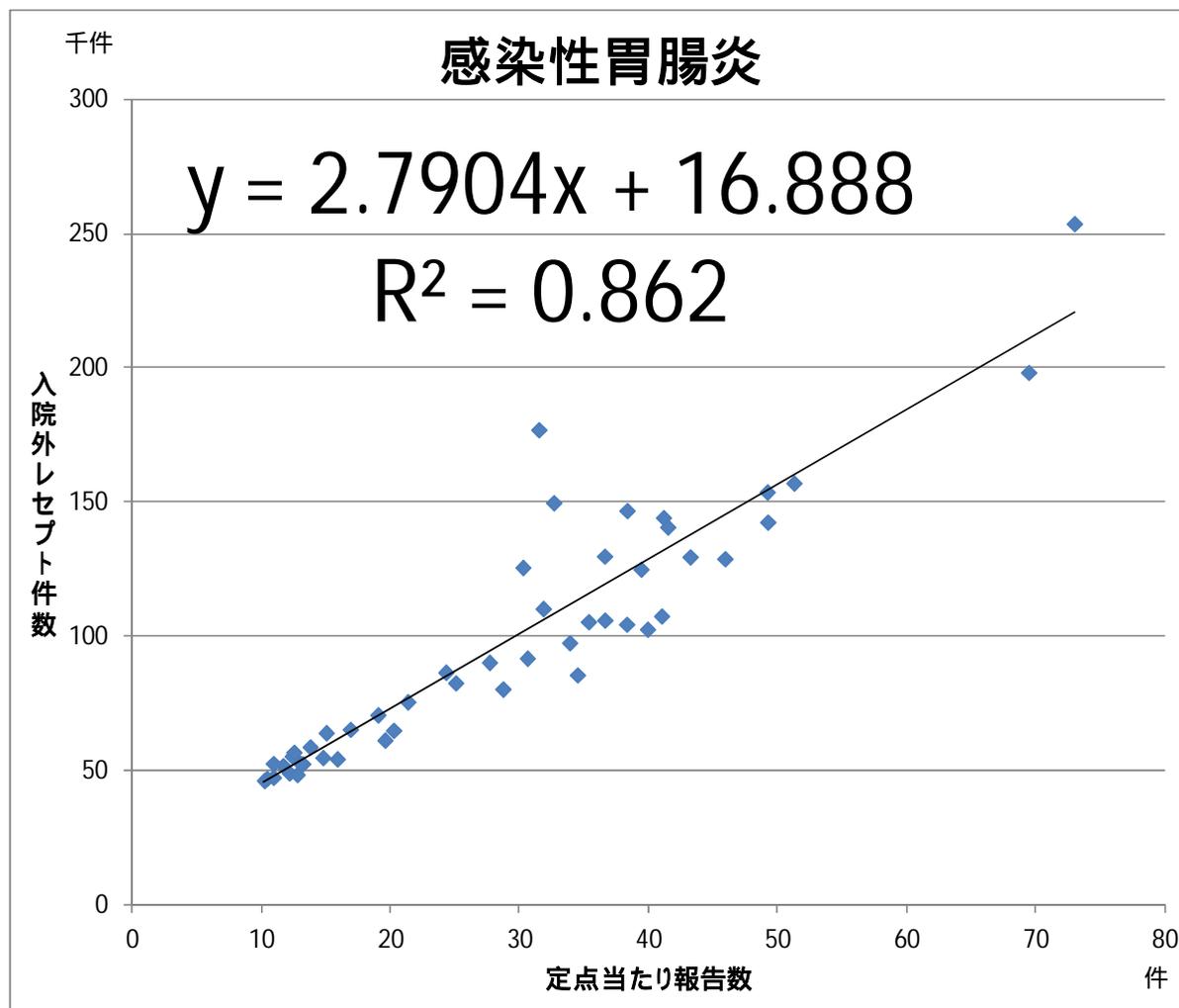
#### 感染症発生動向調査(定点報告数等)と対象傷病別レセプト件数との比較



定点報告数等は、週報の計数を日数に応じて月単位に再集計したものである。

### 3. 結果

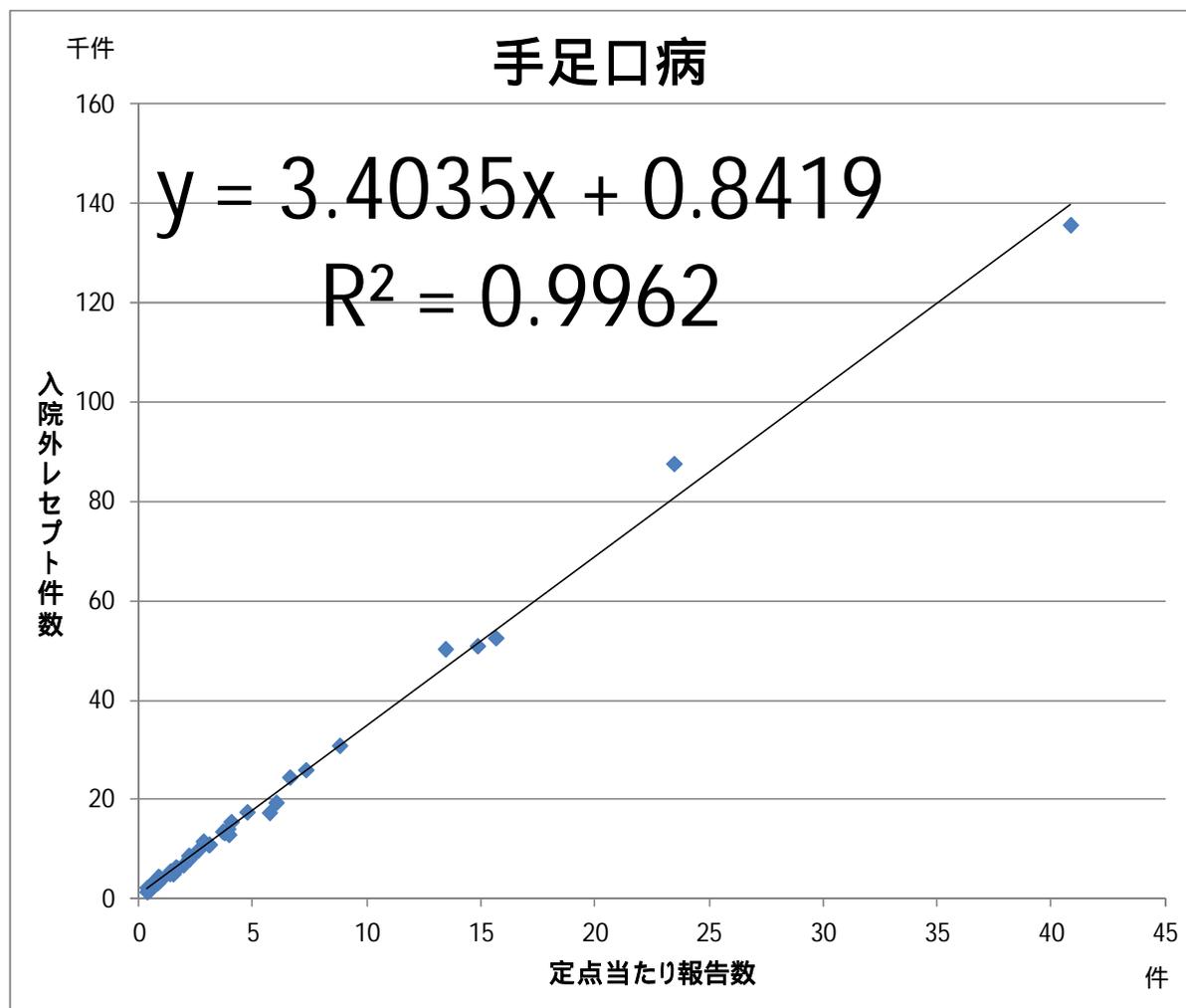
#### 感染症発生動向調査(定点報告数等)と対象傷病別レセプト件数との比較



定点報告数等は、週報の計数を日数に応じて月単位に再集計したものである。

### 3. 結果

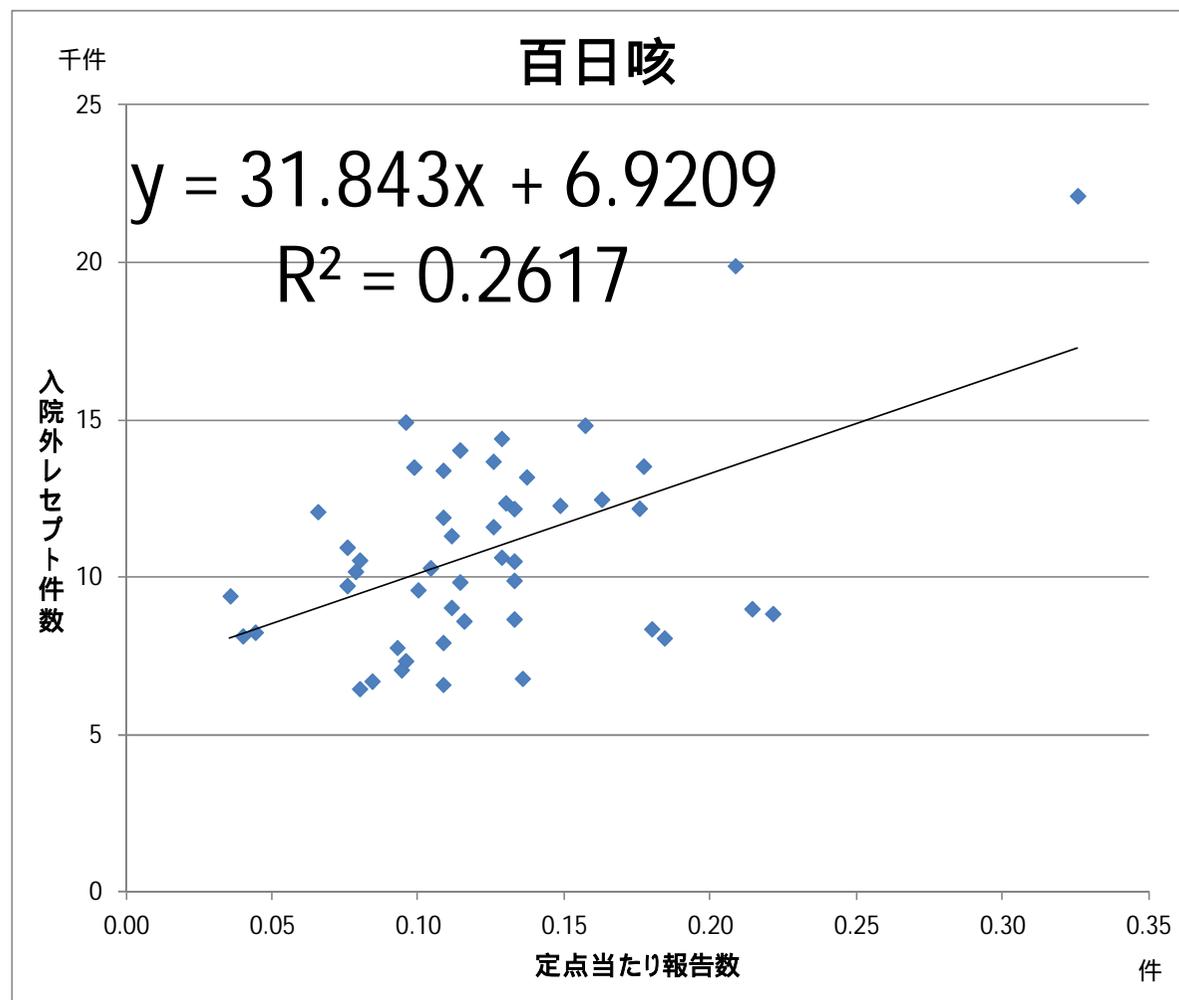
#### 感染症発生動向調査(定点報告数等)と対象傷病別レセプト件数との比較



定点報告数等は、週報の計数を日数に応じて月単位に再集計したものである。

### 3. 結果

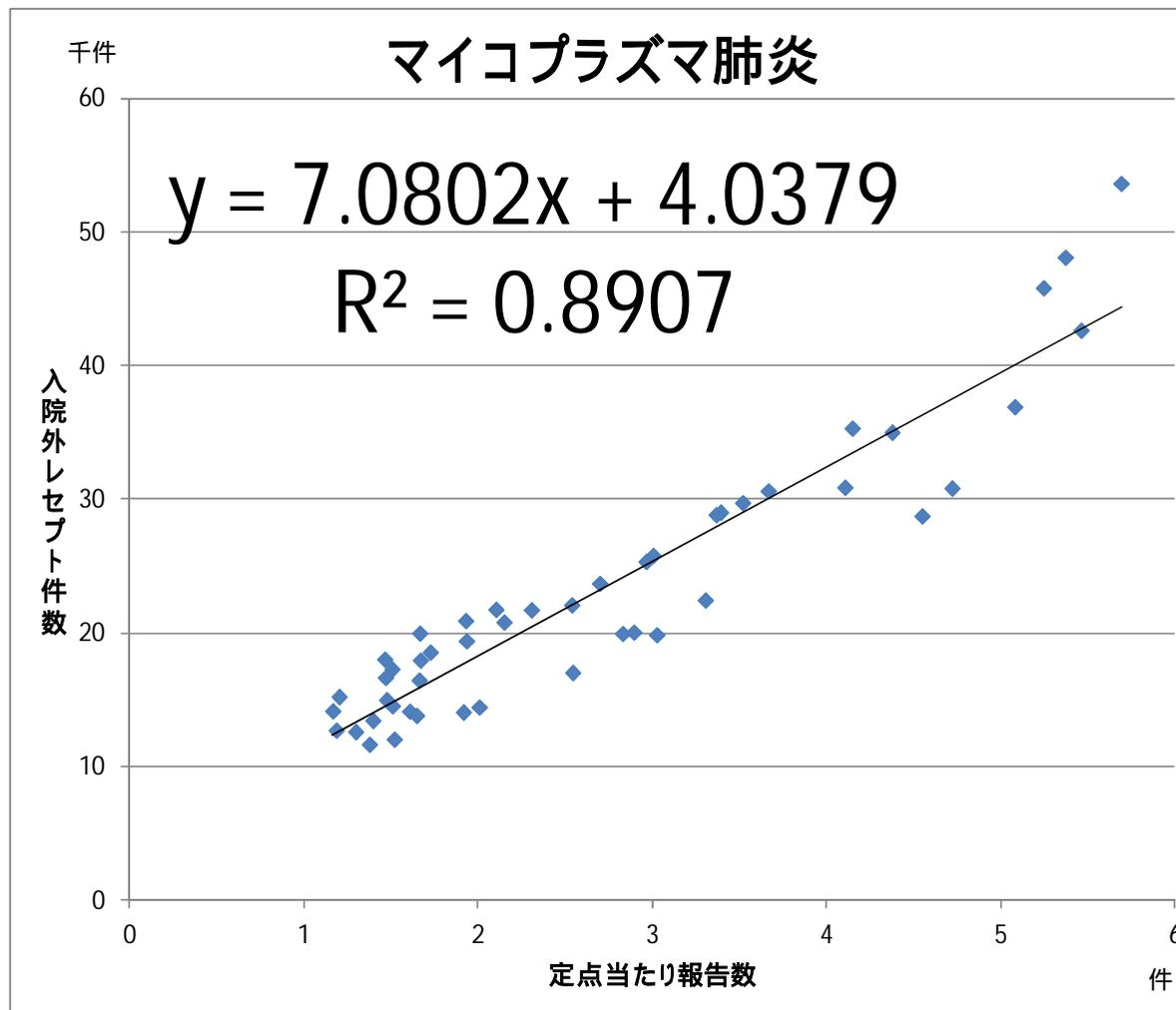
#### 感染症発生動向調査(定点報告数等)と対象傷病別レセプト件数との比較



定点報告数等は、週報の計数を日数に応じて月単位に再集計したものである。

### 3. 結果

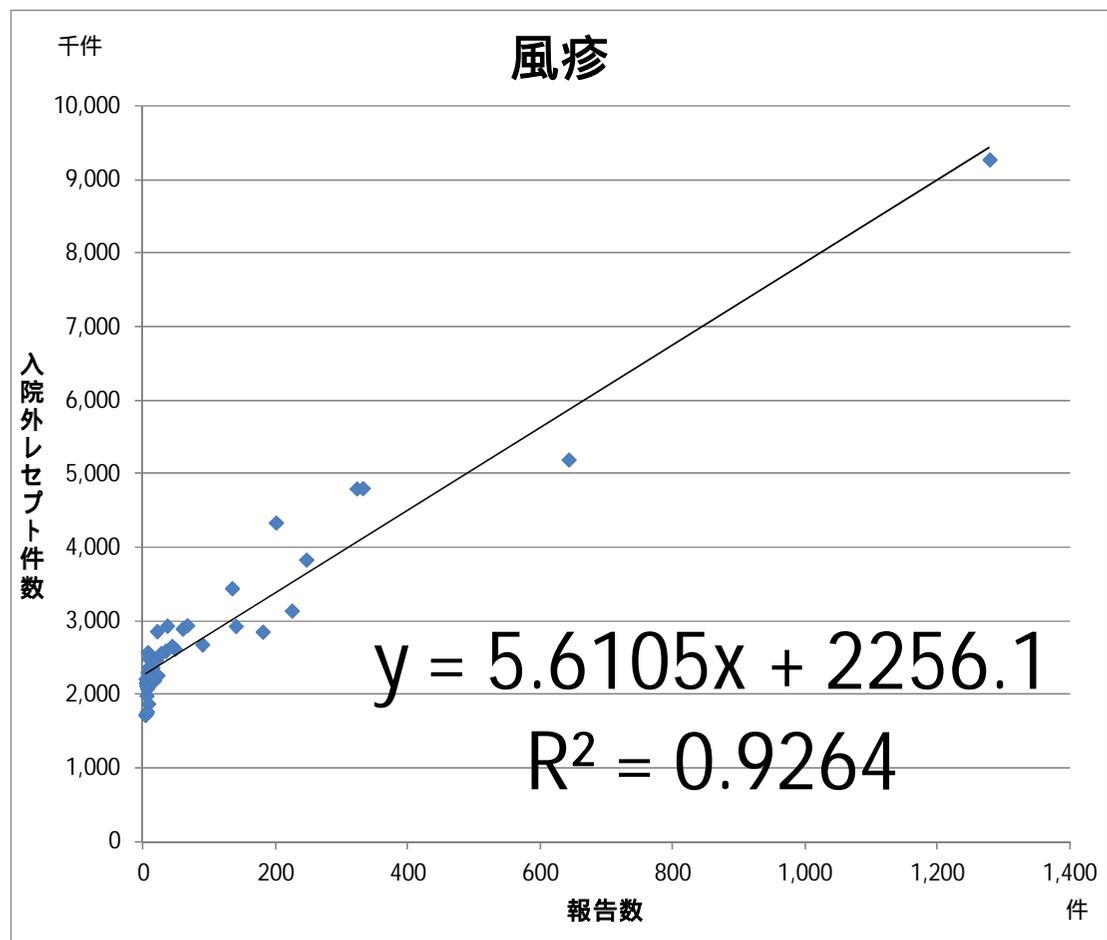
#### 感染症発生動向調査(定点報告数等)と対象傷病別レセプト件数との比較



定点報告数等は、週報の計数を日数に応じて月単位に再集計したものである。

### 3. 結果

#### 感染症発生動向調査(定点報告数等)と対象傷病別レセプト件数との比較

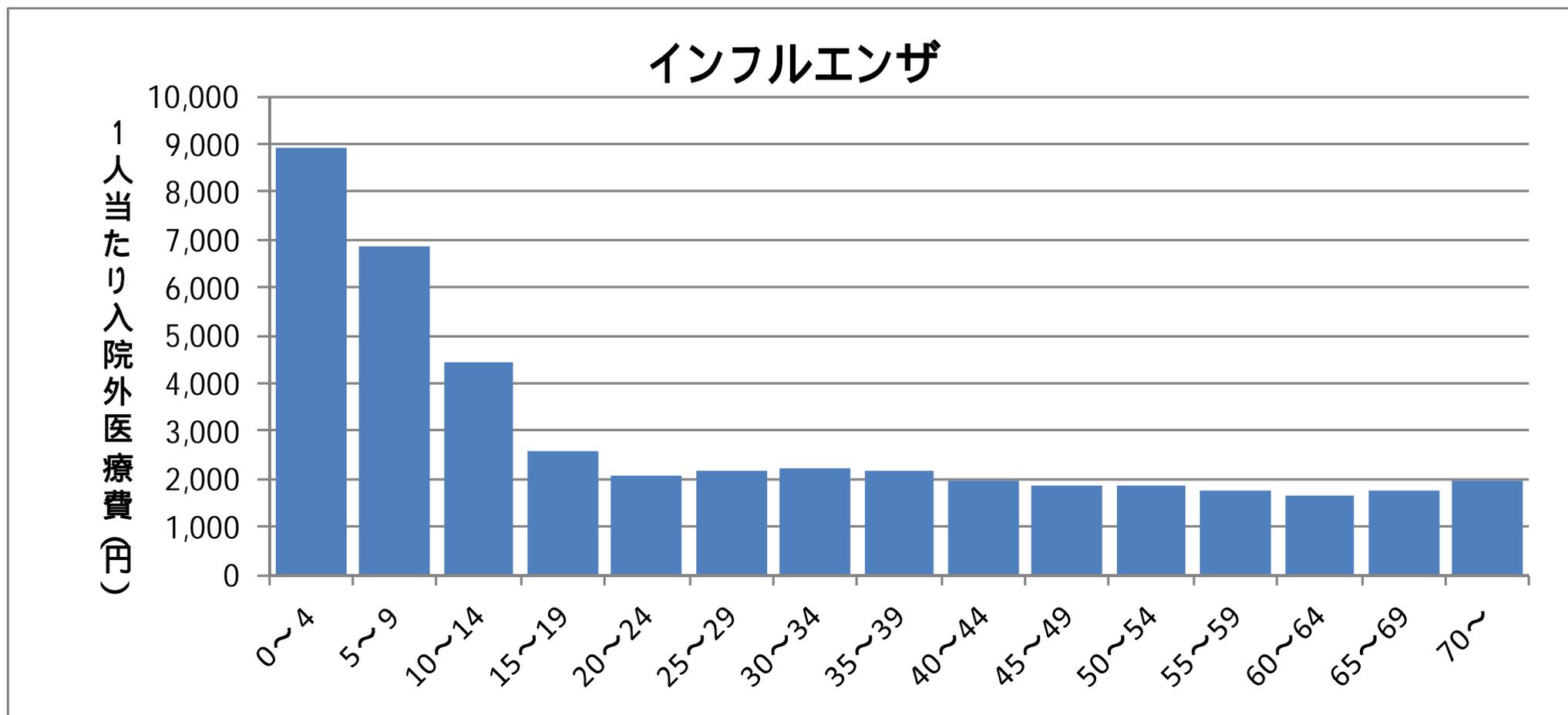


定点報告数等は、週報の計数を日数に応じて月単位に再集計したものである。

比較を行ったほとんどの傷病で強い相関関係が認められた。

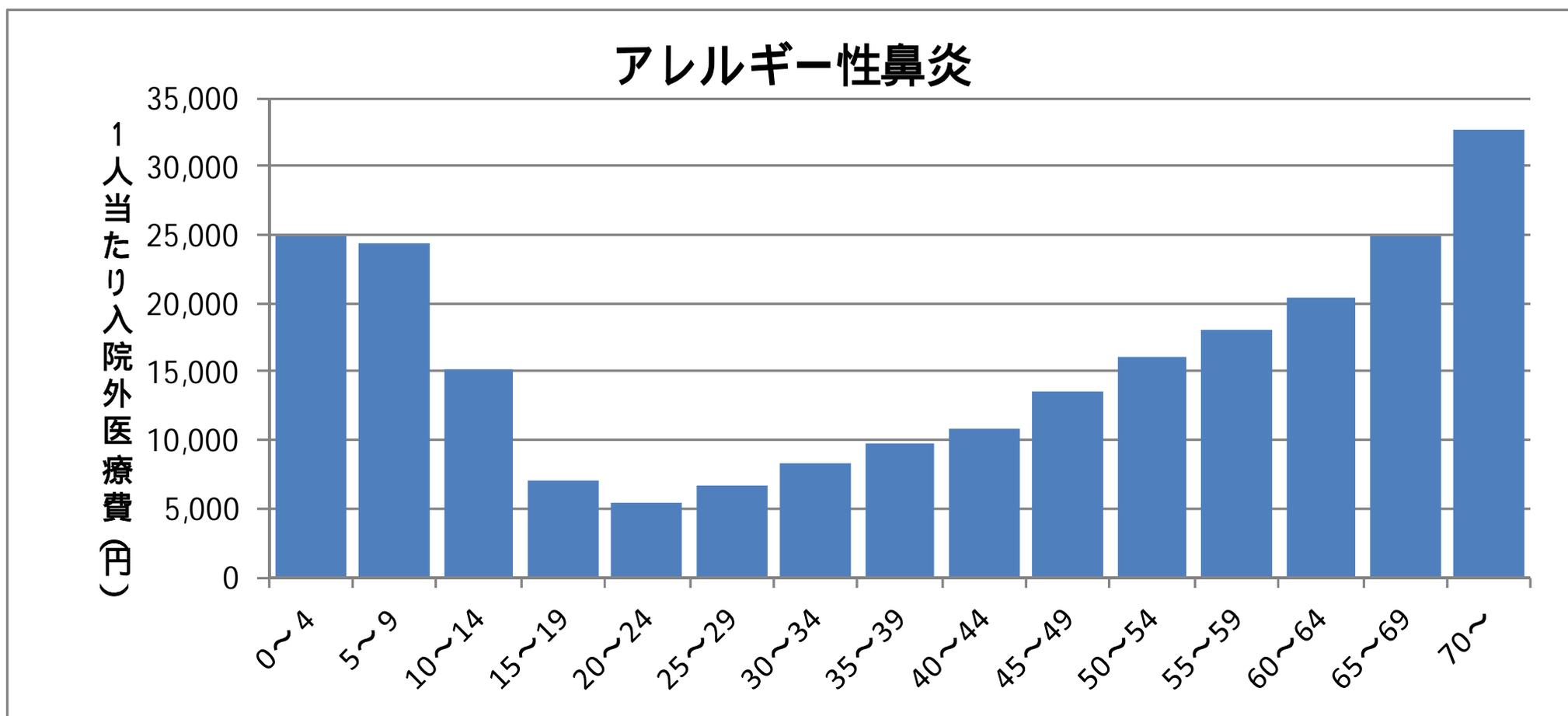
### 3. 結果

年齢階級別対象傷病別1人当たり入院外医療費(平成24年度)



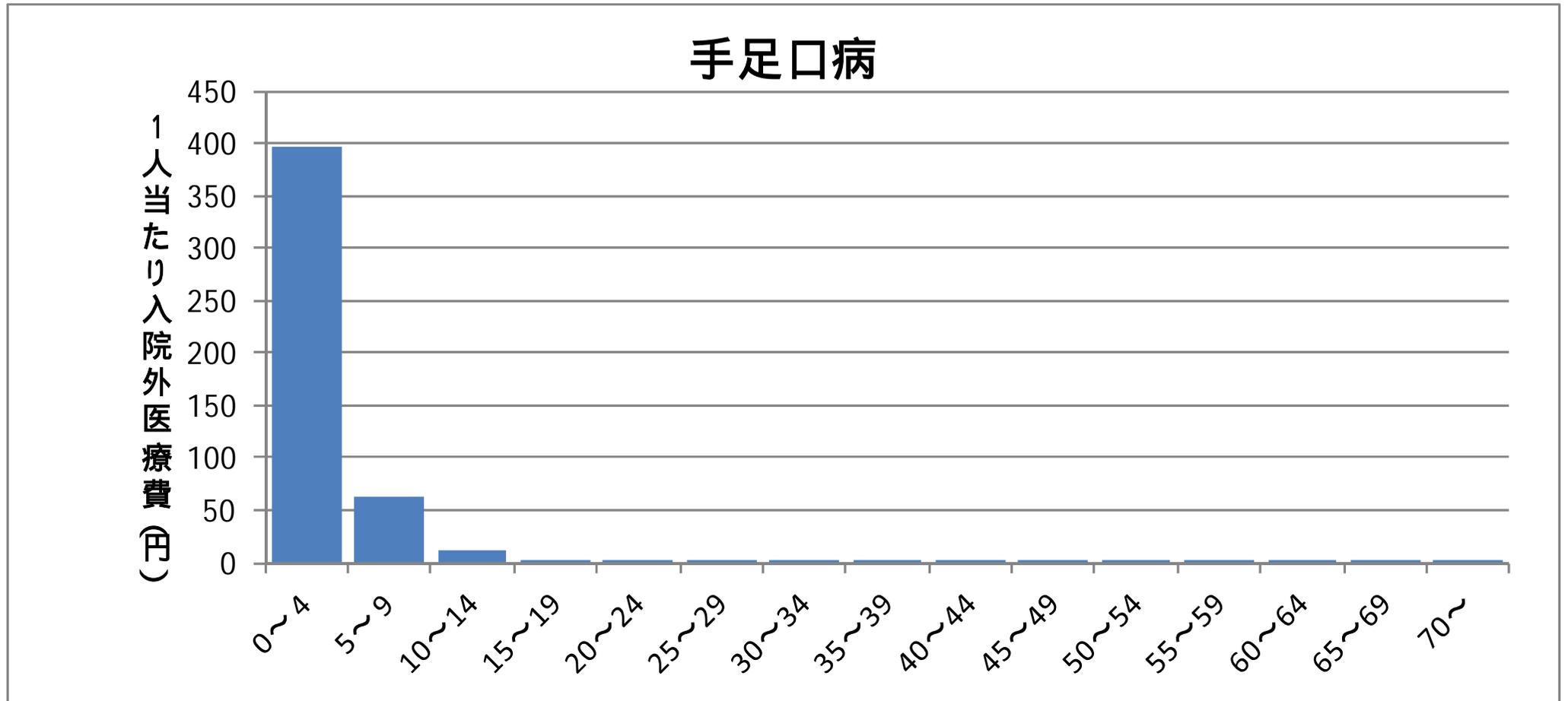
### 3. 結果

年齢階級別対象傷病別1人当たり入院外医療費(平成24年度)



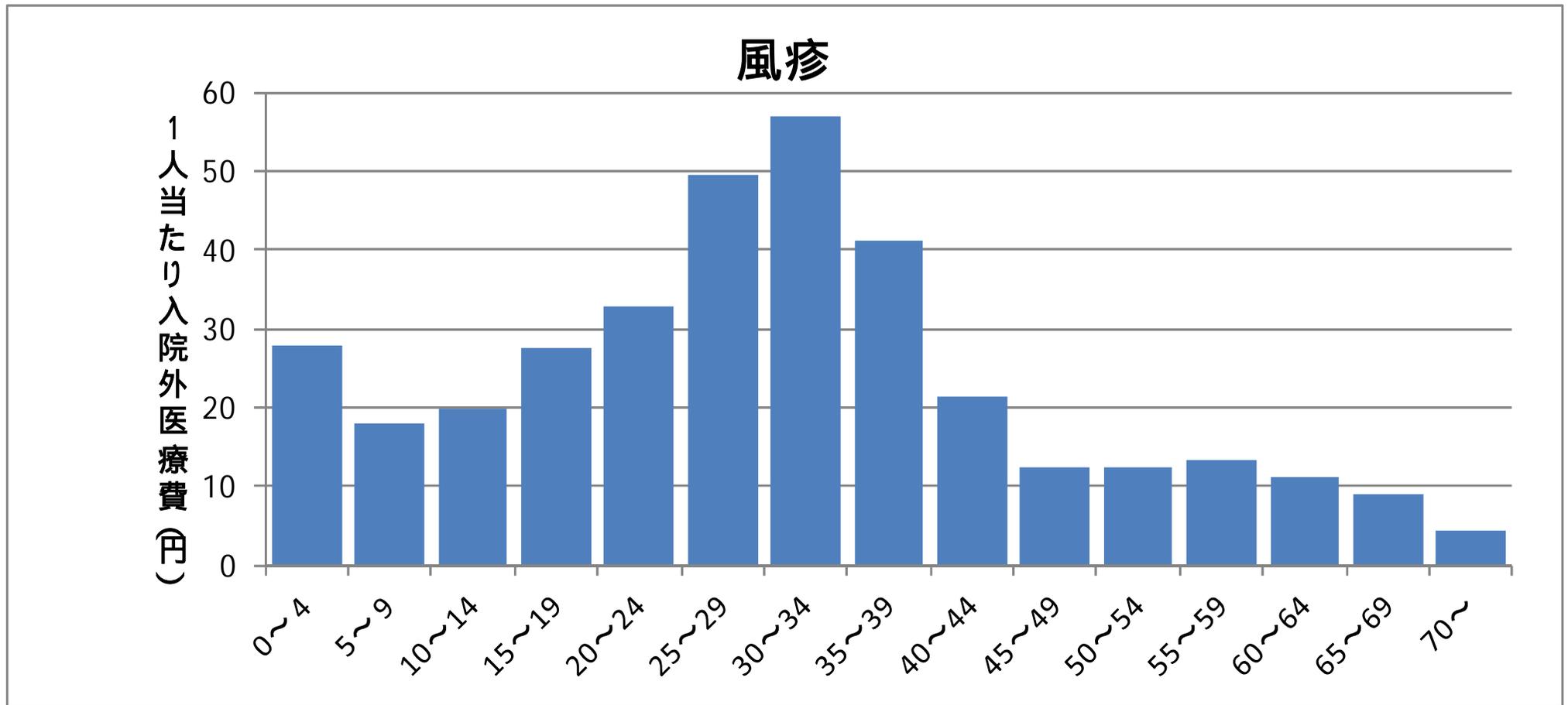
### 3. 結果

年齢階級別対象傷病別1人当たり入院外医療費(平成24年度)



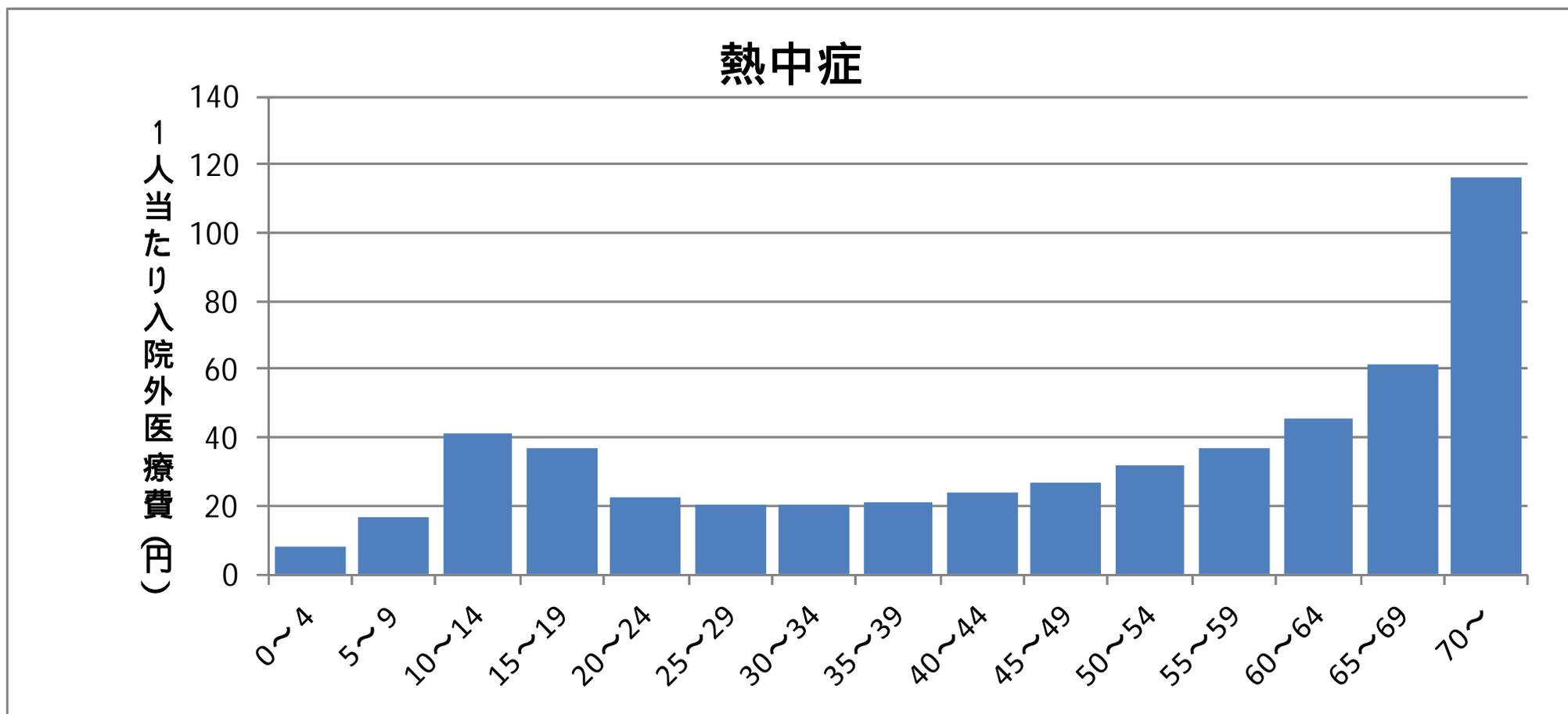
### 3. 結果

年齢階級別対象傷病別1人当たり入院外医療費(平成24年度)



### 3. 結果

年齢階級別対象傷病別1人当たり入院外医療費(平成24年度)



年齢階級別の1人当たり入院外医療費の分布は、対象傷病によって大きく異なる。

## 3. 結果

### 支部別対象傷病別1人当たり入院外医療費の支部間比較

支部別の傷病別1人当たり入院外医療費(平成21～24年度)を比較するため、全国平均との乖離率を算出する。また、支部間では加入者の年齢構成、感染症の流行状況の違いが、感染症等の医療費に影響を与えられられるため、支部間の年齢調整及び流行状況の調整を行い、全国平均との乖離を以下の3つに要因分解する。

年齢調整 . . . . . 支部の年齢構成割合を全国平均の年齢構成割合に調整する。

流行状況の調整 . . . . . 感染症発生動向調査と傷病別レセプト件数との相関関係から、受診率(件数/人数)が流行状況を表すと考えて、支部の3要素分解における年齢階級別受診率を全国平均の受診率に調整する。

年齢差(年齢構成の違いによる部分)

支部1人当たり医療費 - 年齢調整後の支部1人当たり医療費

流行状況(流行状況の違いによる部分)

年齢調整後の支部1人当たり医療費 - 年齢調整後、流行状況調整後支部1人当たり医療費

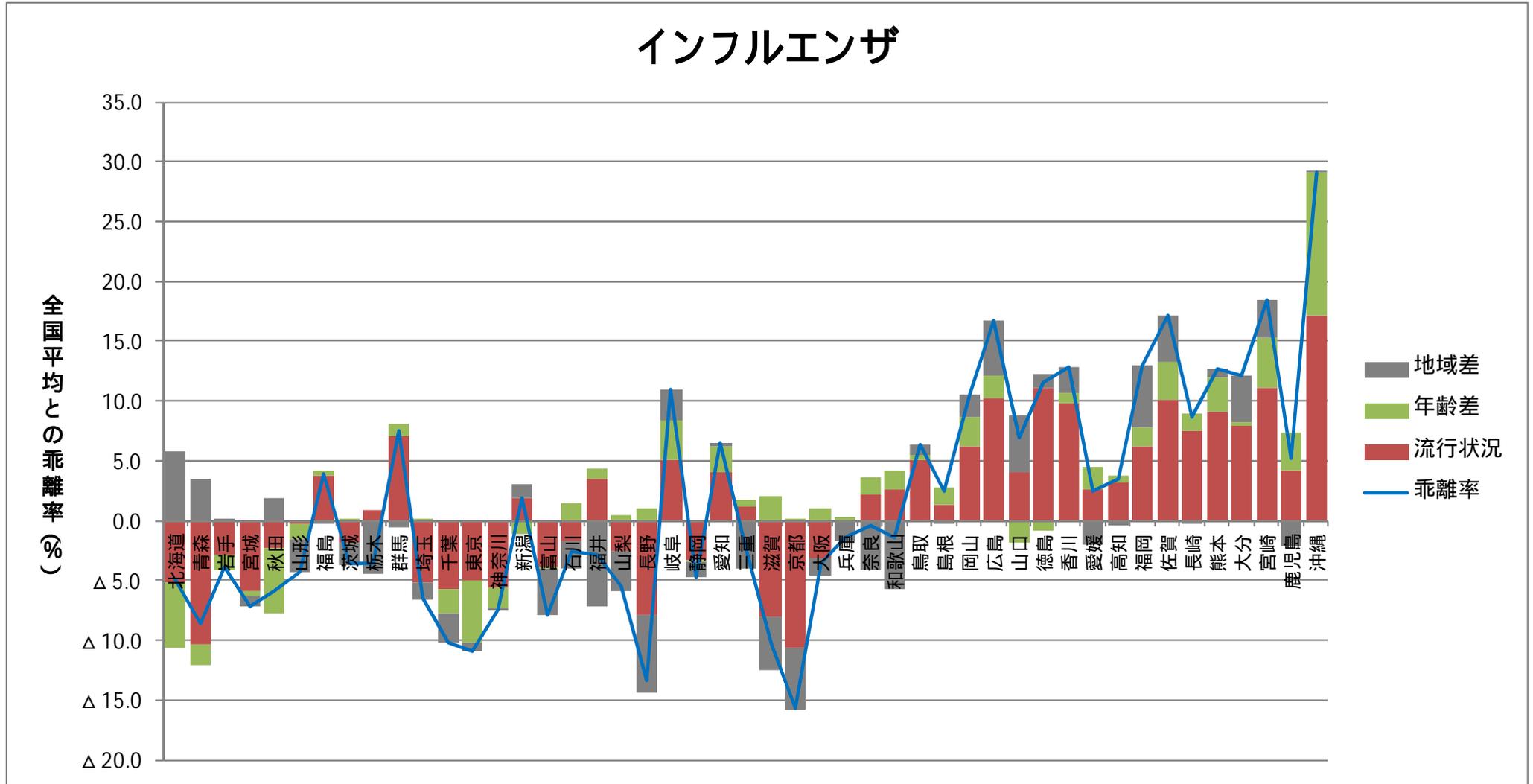
地域差(年齢差、流行状況の違い以外の部分)

年齢調整後、流行状況調整後支部1人当たり医療費 - 全国平均1人当たり医療費

### 3. 結果

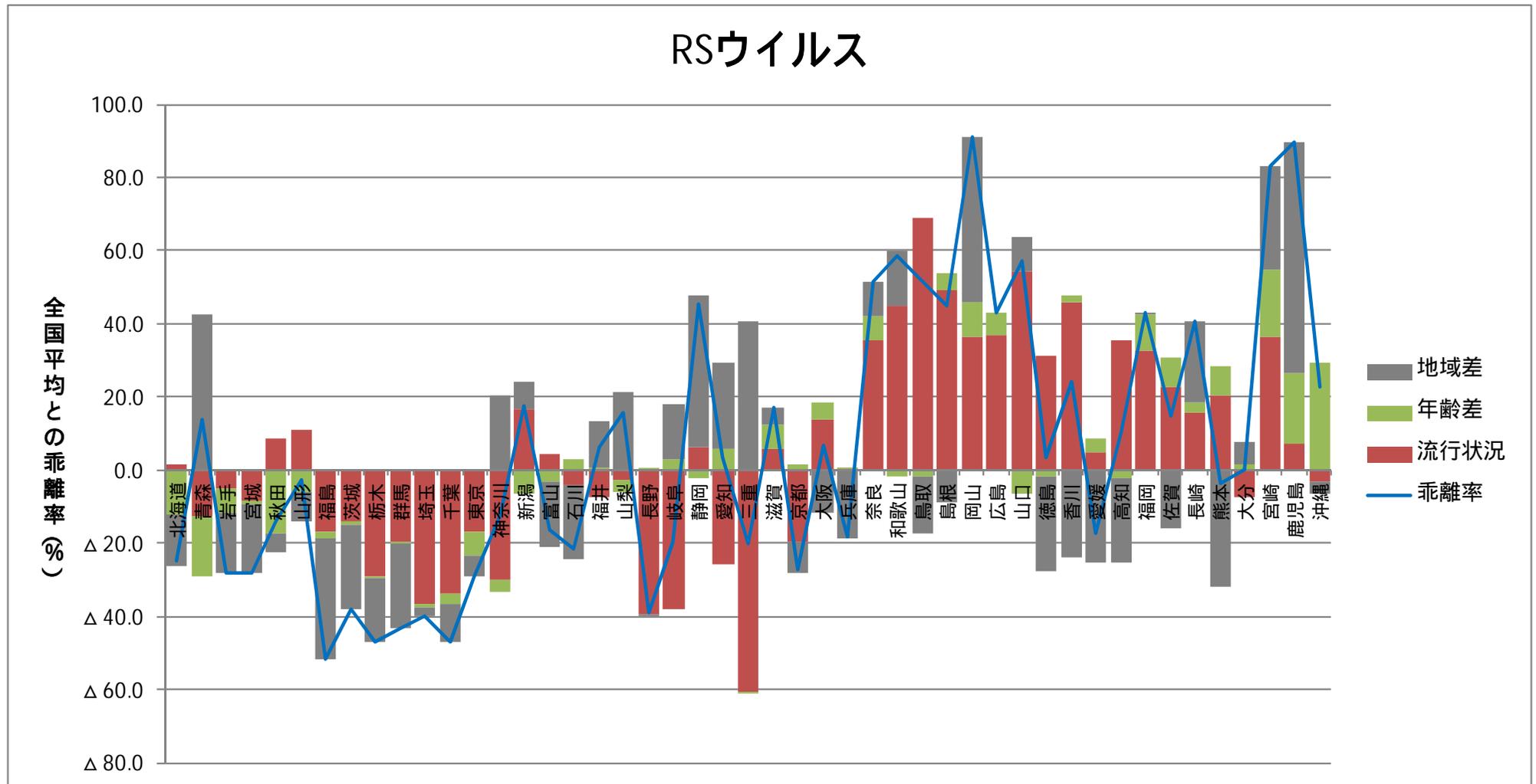
支部別対象傷病別1人当たり入院外医療費の全国平均との乖離率

#### インフルエンザ



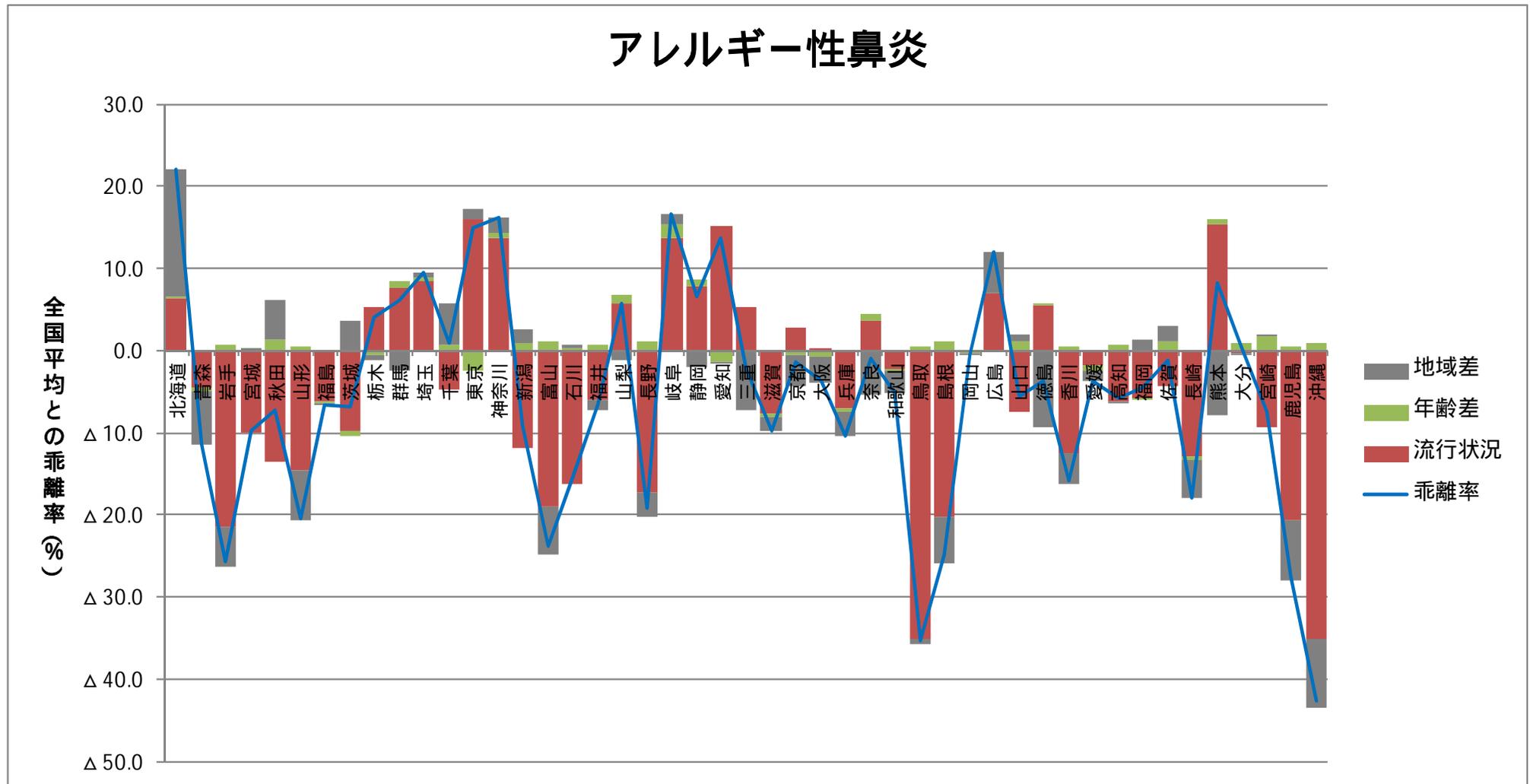
### 3. 結果

支部別対象傷病別1人当たり入院外医療費の全国平均との乖離率



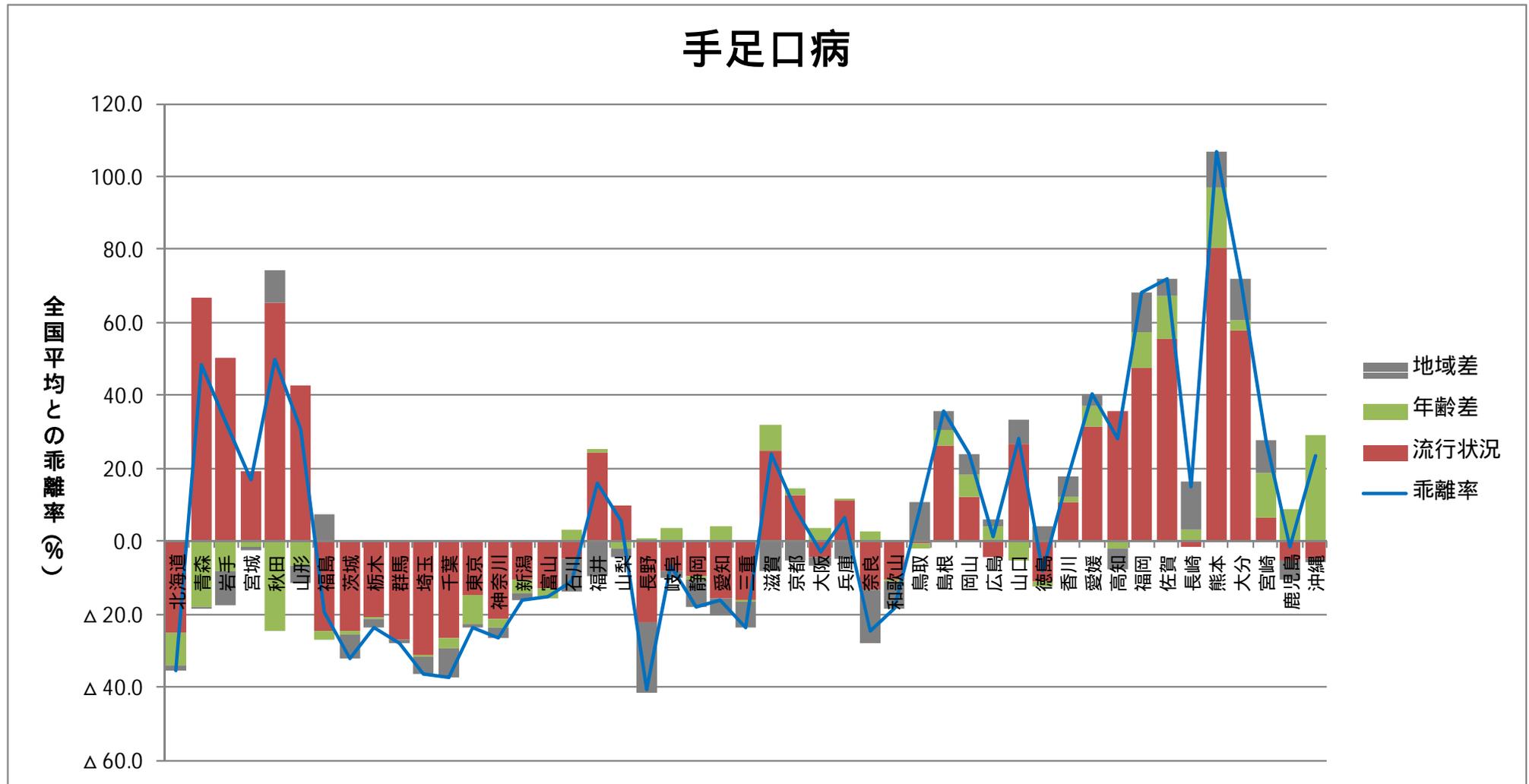
# 3. 結果

## 支部別対象傷病別1人当たり入院外医療費の全国平均との乖離率



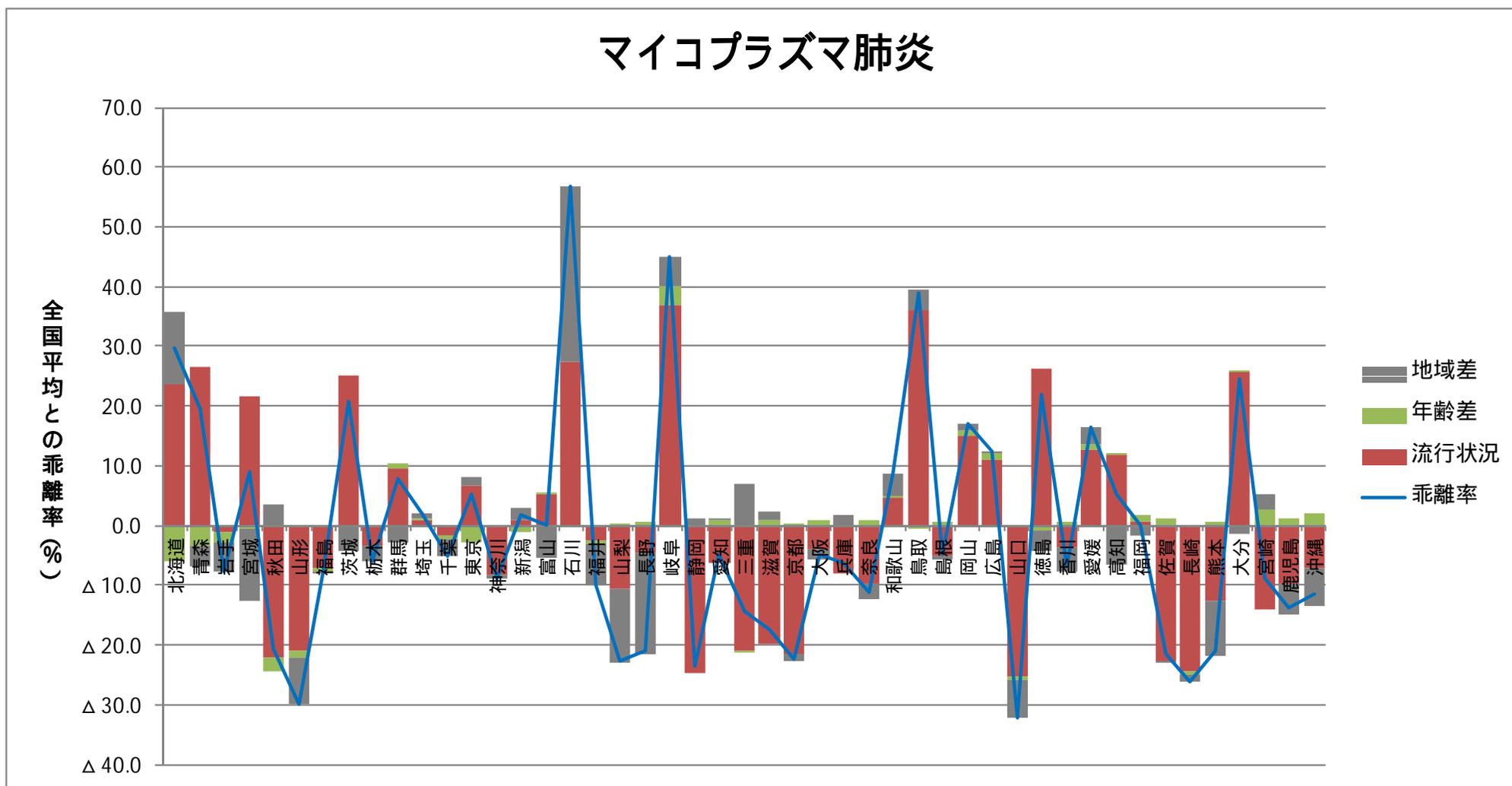
# 3. 結果

## 支部別対象傷病別1人当たり入院外医療費の全国平均との乖離率



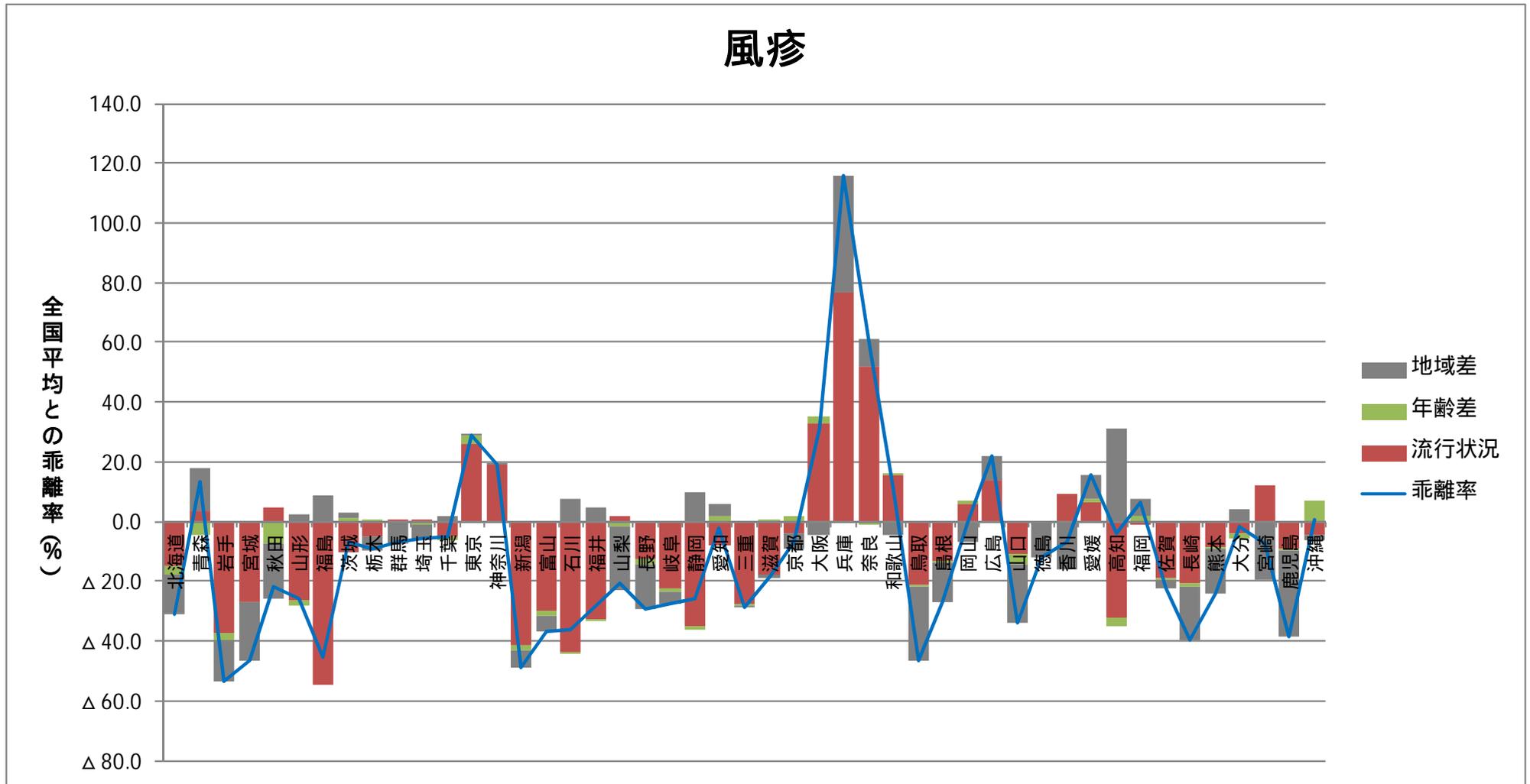
### 3. 結果

#### 支部別対象傷病別1人当たり入院外医療費の全国平均との乖離率



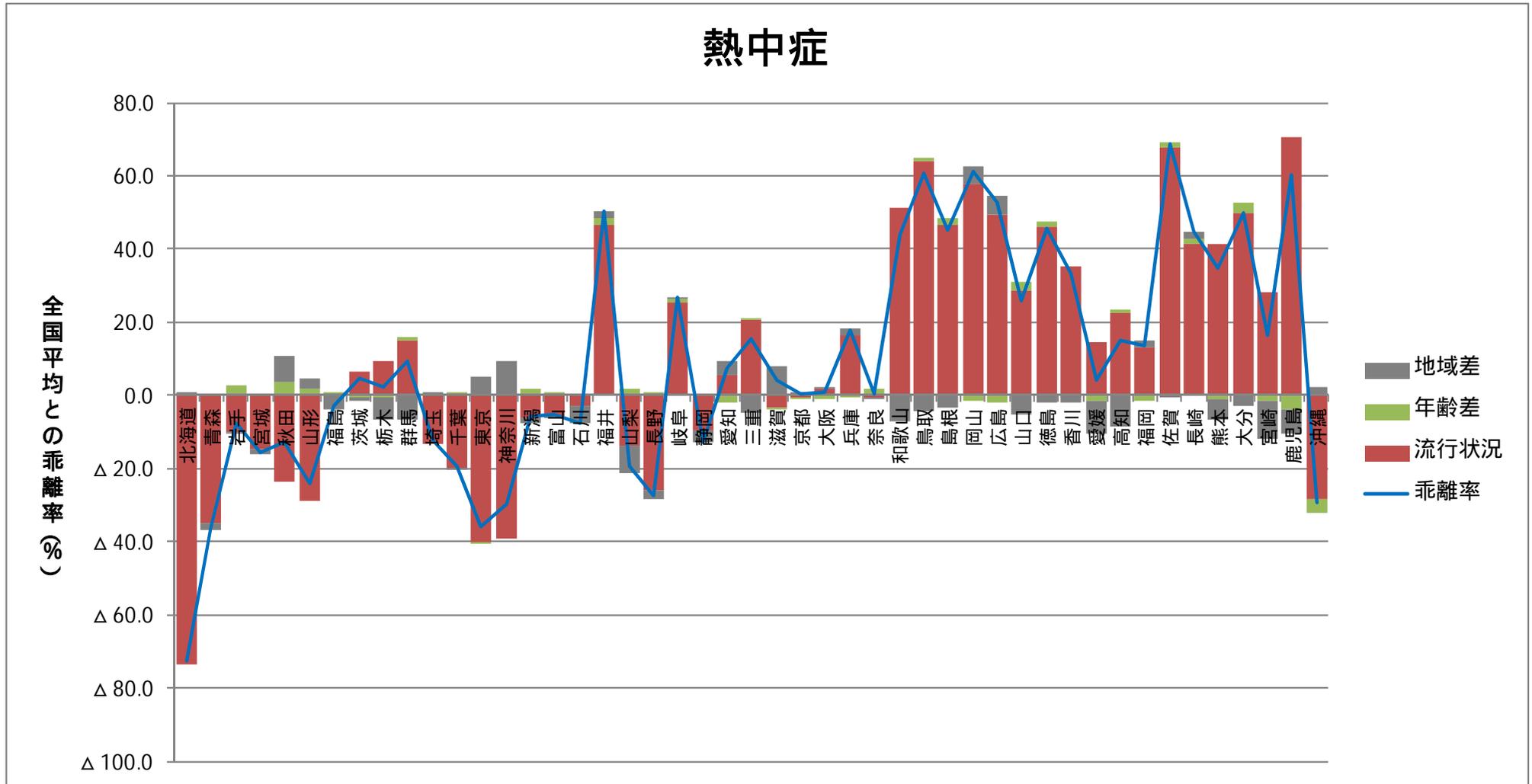
### 3. 結果

支部別対象傷病別1人当たり入院外医療費の全国平均との乖離率



# 3. 結果

## 支部別対象傷病別1人当たり入院外医療費の全国平均との乖離率



### 3. 結果

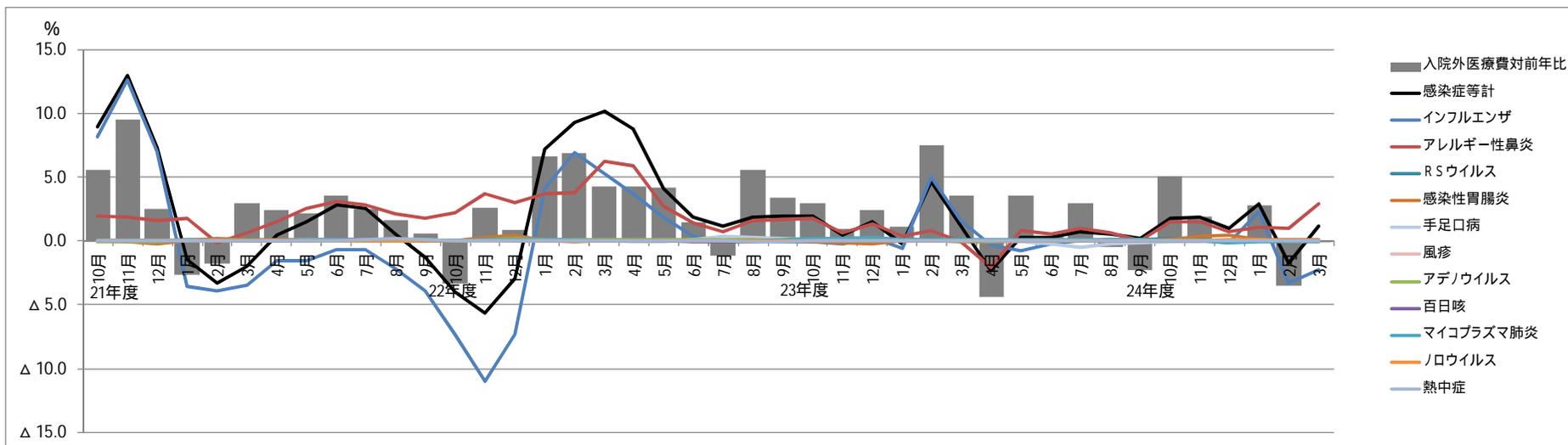
流行状況による要因は、いずれの傷病においても大きな要因となっている。

年齢差による要因が大きい傷病は、インフルエンザ、RSウイルス、手足口病であり、子供が罹りやすい傷病となっている。

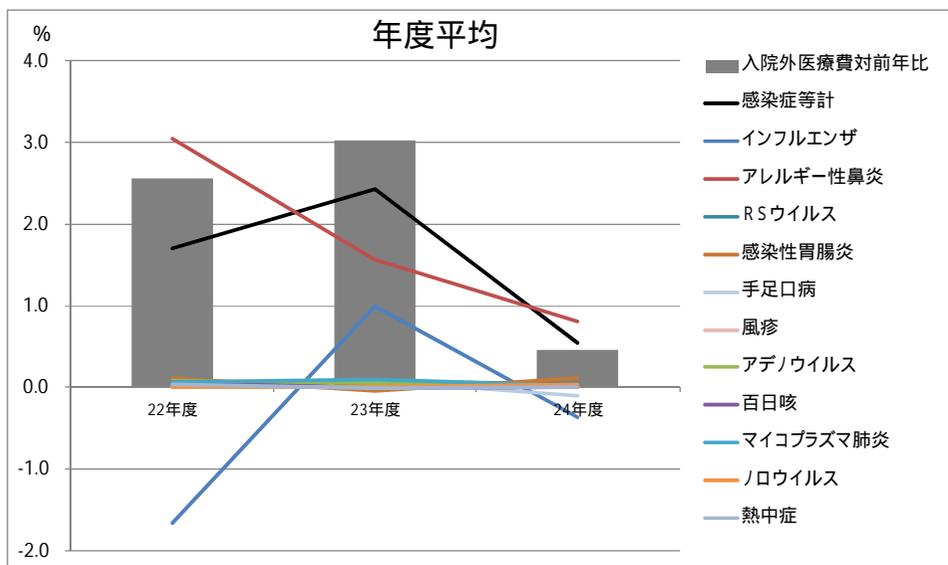
地域差による要因が大きい傷病は、インフルエンザ、RSウイルス、マイコプラズマ肺炎である。

# 3. 結果

## 1人当たり入院外医療費対前年比の対象傷病別寄与度分解



今回の集計方法では傷病別入院外医療費で重複集計となる場合があるため、傷病別の寄与度の合計は感染症等計と一致しない。

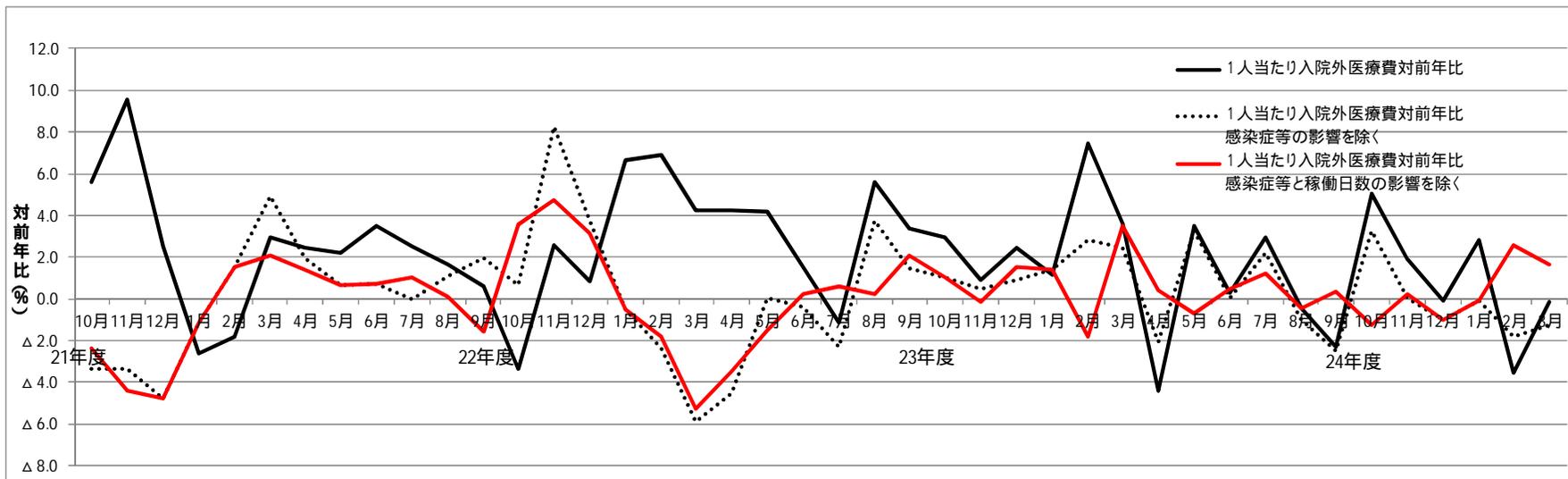


アレルギー性鼻炎については、プラスの寄与が大きく、インフルエンザについては、プラスにもマイナスにも大きな寄与となっている。それ以外の傷病の寄与は、いずれも0.5%以下となっている。

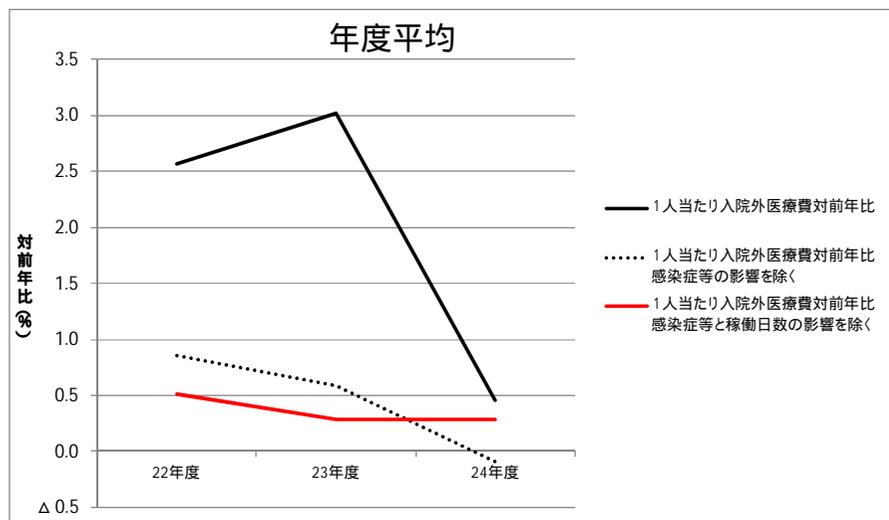
### 3. 結果

## 感染症等、稼働日数の影響を除いた1人当たり入院外医療費対前年比の推計

(1人当たり入院外医療費対前年比から、感染症等計の寄与度、稼働日数補正係数を除く。)



稼働日数の補正については、厚生労働省資料の稼働日数補正係数を使用。



感染症等、稼働日数の影響を除いた対前年比について、年度平均で見ると、22年度が0.5%、23年度が0.3%、24年度が0.3%となる。(診療報酬改定の影響、自然増分等)

## 4. 考察

対象傷病の医療費について、支部別・年齢階級別の1人当たり医療費及び3要素分解等の基本的な統計が明らかとなった。

対前年比の対象傷病別の寄与度分解の結果により、対前年比の変動に影響を与えると考えられる対象傷病は、インフルエンザ及びアレルギー性鼻炎であり、それ以外の傷病についての影響は小さいと考えられる。

現状のレセプト傷病名による集計では、複数の傷病名の記載がある場合、集計対象とする傷病以外の医療費も含まれることから、傷病名コード以外の診療行為、薬剤等の情報から、傷病ごとの医療費を集計する方法について検討する。

今後は傷病別入院外医療費について、支部別年齢階級別等のさらに詳細な分析も検討する。